

# 村は無くなっても、村はある！小さな村の「あば村宣言」住民出資による合同会社を結成し村の課題解決と活気を取り戻す

2019年6月27日 2019年度第1回(通算135回)農山漁村コミュニティ・ビジネスセミナー【講師】あば村運営協議会 事務局長 皆木 憲吾 氏 (岡山県津山市)を開催しました。

阿波地区は、人口約 500 人。1,000 メートル級の山に囲まれ、域内の 94%が山林です。過疎化と高齢化が進行するなか、合併し役場機能が縮小されるなか、地域住民の暮らしを守り、攻めの自治を展開するために、役場を模した機能をもつ、あば村運営協議会を作りました。



各事業は独立採算制ととりつつ、協議会の下に連携し、交通空白地有償運送事業や JA のガソリンスタンド撤退した際には、住民出資によるガソリンスタンドを継続、JA の事務所を購買「あば商店」として開設、ガソリン難民・買物難民対策や地元スーパーと連携し、ネットスーパーの仕組みを使った見守りと買物支援の取り組みも行い。

また、閉校した小学校の空き教室に津山市が農産加工施設を平成 28 年度に整備し、地域の加工グループによる農産加工品の製造を展開して、従来の餅や味噌・豆腐・佃煮などの加工に加え、豚みそなど新たな商品開発を行い「あば村」の認定マークも作成し、ブランド化、他地区との差別化を図る取組を進め活動資金を捻出しています。

さらに移住促進を進め、平成 24 年 1 月から平成 30 年末の 7 年間で 25 世帯 50 人(協議会が把握している延べ人数)の移住や U ターンが生まれ、古民家レストランの開設やエステサロンの開設など地域への新しい刺激も生まれています。

日々地域の課題と向きあい、活気ある村の暮らしを守るさまざまな取り組みについて詳しく説明と、さまざまな質疑応答で、暮らしと仕事を守り作る地域創生の真の姿を学ぶことができたのではないかと思います。講師の皆木さん、参加者の皆さん、ありがとうございました。





《あば村宣言》

岡山県阿波（あば）村は平成の大合併の流れの中、平成十七年に津山市と合併し百十五年続いた「村」はなくなりました。

それから十年。合併当時七百人だった人口は五七〇人にまで減り、百四十年の歴史のある小学校は閉校、幼稚園は休園、唯一のガソリンスタンドも撤退、行政支所も規模縮小…。状態となつてしまいました。しかし、このような逆境の中でも未来を切り拓く挑戦が始まっています。

地域住民が設立したものは、住民同士の暮らしの支えあいや環境に配慮した自然農法のお米や野菜づくりにも挑戦しています。閉鎖されたガソリンスタンドは住民出資による合同会社を立ち上げ復活させます。エネルギーの地産地消を目指し、地元間伐材を燃料にした温泉薪ボイラーの本格稼働も始まりました。

こうした取り組みの中で地域住民に留まらず、地域外からも協力者や移住してくる若者も増え始め、私たちは自らの手で新しい村をつくることを決意しました。

この度、私たちはここに「あば村」を宣言いたします。自治体としての村はなくなりましたが、新しい自治のかたちとして、心のふるさととして「あば村」はあり続けます。周りは山だらけ、入り口は一つしかない「あば村」は不便で阿もない場所かもしれませんが、しかし、「あば村」には人間らしく生きるための大切なものがたくさんあります。このあば村の自然と生きづく暮らしを多くの方々と共に守り続けていくこと、そして子どもたち孫たちにもこの村での暮らしや風景を受け継いでいくことを決意し、宣言いたします。

二〇一十五年二月 あば村運営協議会  
会長 小椋 懋

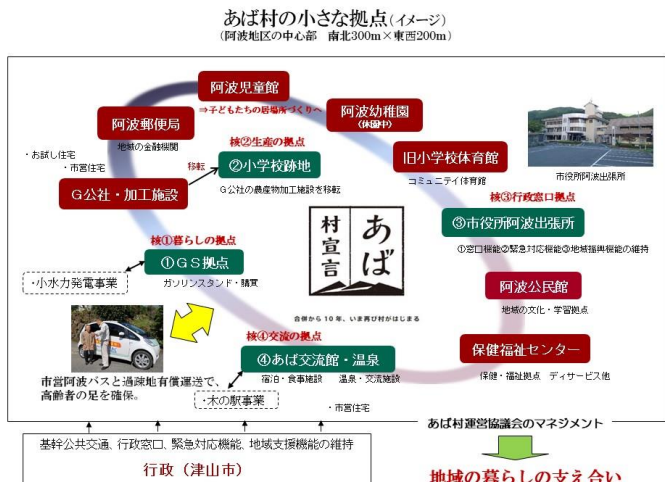
【第2の矢】⇨小さな仕事づくり(小学校跡地を核として)

あば商店(GS)を地域拠点とした地域生活支援へ



GS単独では採算性が難しい。複数の事業を組み合わせることで収益性と機能強化を模  
GSスタンド経営、購買、地元スーパーと連携した宅配事業、お試し住宅など

エコビレッジ阿波推進協議会⇒あば村運営協議会へ



役場を模して5つの(事業)部を組織